

## 四年制大学

### 神奈川県立保健福祉大学

神奈川県立保健福祉大学を受験しました。志望校を決定する際重視したのはカリキュラムと教育方針です。私は人について様々な視点から総合的にかつ実践時に学べるため、この大学を選びました。同じ学科名でも大学によって力を入れている講義（同じ地理学科でもアジア圏に強かったり、ヨーロッパ圏に強かったりなど）が違うのでオープンキャンパス参加や資料請求を積極的に行い、自分の学びたいものを学べる大学を見つけてください。また、4年間を過ごすので、その大学の基本方針に心から同調できることは大事だと思います。

受験内容は、センター5教科6科目、集団面接プラス討論、総合問題（実験考察・英文体小論文）でした。

センター対策は

- 1、簡単な参考書で全体確認・苦手発見。
- 2、苦手単元は中学校レベルまで遡って克服・理解。
- 3、センターレベル問題。

の順で行いました。

問題を解くこと以上に見直しには力をいれ、間違えた問題だけでなく、勘で解いた問題・意味のわからなかった用語はチェックし、隅に答えと自分がわかりやすい解説を書き込みました。また、「チロキシシン」って何のホルモンだっけ？と思ったら参考書を開いて自律神経の単元を全て見直し、自分の中であやふやになっている部分はすべてルーズリーフにまとめる。（このとき“簡単な参考書”であることが生きてきます。）次見直しのとキまた忘れていたらルーズリーフにまとめる。を何度も繰り返しました。私どれだけチロキシシン好きなんだろう……と悩み始めたら、そうそれが恋です。もうチロキシシンは頭を離れません。刷り込まれます。恐怖とともに。

集団討論や小論文は、新聞やテレビを見て知識・意見をおおよそ固めるのに加え、進学分野の関連書籍を読んでみることをオススメします。著者本人の意見も交えてある評論文を読むと自分の意見を照らし合わせることが出来るので、考えが広がり、また深まります。本番では「自分の言葉で」「問われたことを適切に」話すことに注意しました。私は面接対策の回答文を丁寧に作っておくと、どうも一字一句を読み上げるようになってしまうのでやめました。伝えたいことを箇条書きにメモして置くくらいのほうが、より自然な話し方になると思います。

現社のテストでは、家庭科の授業で習ったことが出題されました。小論文では、地理や歴史で学んだことを具体例に挙げました。総合問題では、選択の英文速読・化学での実験考察が役に立ちました。「受験科目」ではないものも決して無駄になりません。六実で過ご

した何気ない時間が、先生や友達との出会い、語り合ったことが、今の私をかたちづくっているのだと、受験を通して気づきました。「合格ありがとうございます。」と叫びたいです。悔いの残らぬよう、かけがえのない一瞬、人との出会いを大切にして、充実した高校生活を送って欲しいと思います。

人生とは。絵を描くことに似ているといわれます。どの筆（職業・大学）を選ぶかに行き詰ったら、どんな絵（人生・自分）にしたいかを考えてみてください。受験中は何もかも投げ出したくなる時もあると思います。しかし、自分はどんな人間になりたいか、自分は何をやりたいかは見失わずに、持ち続けてください。自分の人生を！

## 東洋大学法学部法律学科

僕は東洋大学の法学部にAO型一般推薦で受験しました。始めはレベルが高いし倍率も高かった所以他の所を受けようと思いました。でも、親や先生に「真面目に勉強すれば不可能じゃない」と言われたのでやってみようってことになりました。

僕は東洋の法学部からはたくさんの警察官や法曹関係の仕事に就いていると知ったのでここなら自分のなりたい警察官にもなれるのではと思ったからです。

部活があったため勉強を本格的に始めたのは七月の下旬頃からです。一応参考として代ゼミの模擬テストを受けたけど、勉強方法も独学でよく分からなかったから判定はE判定でした。それから塾に入り、一般だと時間が足りないからということで、AO推薦一本で行こうということになりました。

東洋のAO型一般推薦は、事前に提出する課題レポートと受験日にある読解力テストと先生の講義による理解力テストです。

まず課題レポートは3つの題から一つ選んで、それに対するレポートを800字以内で書くというものです。

それと読解力テストは基本は現代文の評論でした。内容は法律のことは知らなくてもいい内容で、対策として僕はセンター入試の過去問をやりました。理解力テストは先生が30分位講義をしてからその内容を聞かれるというものでした。メモをとってもいいのでそれを使ってペーパーテストを解きました。思った以上に話すのが早いので集中力が切れたらもうどこをやっているのかわからないくらいでした。

この受験方法で思ったことは「まず頑張ってみないと先は見えない。」ということです。もし今楽をして滑り止めの大学を受けたら、遊べるかもしれないけど後悔したと思います。まずは挑戦してみないと何も始まらないし、そのことは損にはならないはずで、必ずいい結果になるとは限らないけど自分の将来のために頑張ってください。

## 共立女子大学国際学部

「ただ普通に暮らしているだけでは知ることのできない、世界のことを学びたい。」

入学当初、崇高な目標や尊敬できる仕事人との出会いを持たなかった私の進路における希望は、漠然としたものでした。そんな己の有様にそれなりの危機感を感じていた私は、興味のある分野の学校の資料を手当たり次第に取り寄せたのです。しかし、山のような学校案内を積み上げて悦に入っていたのは束の間、依然として私の中に将来の己の姿が浮かび上がってくることはありませんでした。

2年生になり、焦燥に駆られた私はようやく重い腰を上げました。昨年のやたらめったらな努力から、自分が各地の風俗や伝統に特に惹かれていることはわかっていたので、まずは進学情報誌を入手し数日間読み耽りました。その結果、私の興味とリンクしている学問は「国際文化」や「国際」などと呼称され、学んだことが生かせそうな職業は旅行業界に転がっているのではないかと、いう点までがわかりました。その後旅行業について調べるなどし、ようやく私は目指したいと思える職業に出会うことが出来ました。

しかし、そこから先もまだ順調には行きません。当初、私はかたくななまでに専門学校への進学を主張しました。資料などを見る限り、実用的なノウハウを教え込み仕事へ直結しているのは専門学校だ、と思い込んでいたためでした。しかしそれは、人生経験の豊富な方々から見ると、酷く短絡的な考えだったようです。進路の相談に乗って下さっていた先生方は、皆一様に大学への進学をお勧めになりました。私の希望している職には、大学に行くことで得られる幅の広い知識と教養が必要であり、また企業の方もそういった人材を求めていると御存じだったからです。ある先生が旅行会社の方に直に伺って下さり、私自身も数校見学に行ったことで心が決まりました。

紆余曲折の末、選んだのが共立女子大学でした。この学校の、専攻地域を限定しないカリキュラムを組むことができ、また私が長年学びたいと思っていたイタリア語の講義を設けているなどの点が、大変魅力的に思われたのです。私は公募推薦で受験しましたが、進路の先生に面接の御指導を賜るなどし、無事合格することが出来ました。

結果的にはいい形に収まりましたが、様々な反省点のある日々でした。特に、具体的に考え始めるのが遅かったこと。然るべき順序をまるで無視していたこと。

私もそうでしたが、進路を考えることを煩わしく思う人も多いでしょう。「刹那的な生き方」を選択することももちろんできます。けれど、沢山の方に親身になって手助けして頂いた身からすると、それは何とも無責任で周りの人々の気持ちをないがしろにする選択だと思えるのです。

## 日本大学法学部管理行政学科

私は、警察官になりたいという希望が前からあり、4年制大学の法学部に進学しようという希望は1年生の時からありました。しかし1年生の最初は成績はすごく悪く、とても大学に進学ができるようなものではありませんでした。

2年生になり、進路講演を聞いたりして、今後自分がどうすれば良いのかを考えました。そして2年生半ば、自分は評定が良くないので一般受験で大学を受験をしようと考えました。しかし、予備校に通うことは出来ないので、受験勉強のことなど、自分で調べられるだけ調べ、2年生の1月頃には徐々に受験勉強を開始しました。そのころはまだ勉強ははかどりませんが、3年生になってから困らないように勉強する習慣はつけました。

3年生になってからは学校のある日は、1日4時間勉強するように心がけました。休日はあまり勉強に身が入らなかったため平日に頑張るようにしました。夏休みは学校の補習に出来るだけ参加するようにしました。しかし当初の予定よりは勉強時間はかなり少なくなっていました。2学期になっても文化祭の準備などがあったり、定期考査の勉強があり、思うように進まないことがありました。でもこの頃から勉強のリズムが出来てきて、平日の勉強は6時間になり、ほぼ毎日勉強する時間は全く同じでした。10月頃には第一志望校を決め、勉強はその学校の傾向に合ったものだけをするようにしました。また、併願校を決めるのは大変でしたが、最終的に全部で2校だけ受けることに決めました。受験1ヶ月前からは、基本的な勉強を多めにしました。過去問は最後まであまり解けず、かなり不安が残りましたが、受験本番では、思ったよりもよく出来ました。でも合格するかどうかはかなり微妙でしたがなんとか合格することが出来ました。

受験勉強は大変で時にはやめたくなったり、あきらめたくなくなりますが、最後まで自分の目標をあきらめず、粘り通せば目標に届くと思います。

## 日本大学芸術学部音楽学科

私は幼い頃からピアノが大好きでした。私は元々気が弱く、とても内気で自己表現が苦手でしたが、ピアノを演奏する事により、人前で何かをするという事にも興味を持ち始め自己表現も出来るようになりました。ピアノを通して様々な音楽にも興味を持ち、小学校の頃は演劇に興味を持ち、劇団のオーディションを受けたり、演劇クラブに所属し活動しました。中学では毎日吹奏楽に没頭しました。高校ではバンドを組み、自らダンス同好会を作るなど、様々な芸術関係にチャレンジしてきました。

私は高校三年生の春まで興味の持った事に積極的に挑戦してきました。なので自然に進路を決める時、私の頭の中には「音楽」としか浮かんできませんでした。

なぜピアノを選んだかという、私を変える原点となったからです。しかしいざピアノを本格的に始めると、今までピアノ一本で来たわけではないのでとても大変でした。また始める時期も遅すぎました。音楽大学を受ける人のほとんどが小さい頃から本格的にやっているため、そのハンデに挫折したいと思う事もありましたが、決心した日から毎日ピアノの練習に励みました。またレッスンも本格的に通い始め、私の経験を生かして学べる日本大学芸術学部を受験する事にしました。

私は六月から始まる「日芸オーディション」という少しユニークなAO入試を受ける事

にしました。私は今までの芸術関係の経験によって得たものや生かしている事を最大限にアピールしました。書類審査は通過し、二次試験の実技と面接も通過しました。しかし、最終審査で不合格になってしまいました。しかし、日芸オーディションを受けて自分を振り返る良い機会になりました。そして、ここまで残ったならまだ可能性がある、一般入試もチャレンジしようと思い、すぐに予備校に通い始め、学科と実技に励みました。私はどうしても「日芸」に入りたいという気持ちが強かったので、辛い練習にも耐え、毎日自分なりに一生懸命努力しました。

その結果、私は一般入試で合格しました。その時に感じた事は、やはり自分の興味を持った事に積極的に挑戦し、様々な経験をして良かったという事と、目標にむかってあきらめずに努力する事がどんなに大事なことかわかりました。また、考えているだけでは何も始まらないので、すぐに行動する事が夢に少しでも近づく事だとおもいました。

また受験する時にたくさんの周りの人に支えられました。そして、応援していただきました。入試に関係のない部分でも自分が成長出来る良い機会だとおもいます。

絶対にあきらめずに、行きたい学校をとことん知り尽くし、意欲を持って努力する事が大事だと思います。

私も大学に入ってから自分の好きな事に挑戦し、努力を怠らずに目標に向かって頑張ります。

## 東京女子体育大学体育学部体育学科

私は体育教師になりたいと思っていたので体育大学に行く決めていました。たくさんの体育大学の中から東京女子体育大学を選んだのはここが自分に一番合っていると感じたからです。そして大学説明会でAO入試があると知り、その入試方法を聞いて自分に合った入試方法だと思ったのでAO入試で受験することに決めました。

AO入試とは自分の個性や考えを自己推薦するという入試方法で、面接と書類審査で受験をします。私は試験に向けてエントリーシートの作成と面接練習に力を入れました。エントリーシートは夏休み前から手をつけました。始めは何を書けば良いのかわからず空白が目立ってしまいました。なので国語科の先生に添削してもらい、何度も何度も書き直しました。30枚は書いたんじゃないかと思います。しかしその努力のおかげで自信が持てる文章が出来ました。そしてこれが出来上がってすぐに担任の先生にお願いして面接練習をしました。でも一人の先生だとだんだん慣れてしまうので多くの先生にお願いした方が良いと思います。最初の面接練習では、入室もままならず頭が真っ白になってしまいとても不安でした。そんな不安を解消するために昼休みや放課後を使って先生にお願いしたり、家でも鏡の前で練習をしました。

入試の前日まで不安と緊張で授業どころではなく試験の事ばかり考えていましたが、「やるだけの事はやった。自信を持って」と自分に言い聞かせ、試験会場に行きました。しかし

面接では、かなりあがってしまい入室も失敗、言いたい事ははっきりと言えませんでした。帰りの電車の中で泣きました。合格発表まで3週間以上開いていたので本当に長く感じました。食欲も湧かず、初めてマックを残しました。教室でも泣きました。それほど面接に自信がありませんでした。私は絶対に落ちていると思っていたので、東京女子体育大学短期大学部の指定校を貰うことも考えました。しかし指定校をもらえばもしAO入試で合格しても大学には行けません。この時指定校は先着順だったので誰かが先にもらえば指定校はもらえません。体育大に行く人がけっこういると聞いていたので本当に悩み顧問の先生にも相談しました。しかし先生は「諦めないで結果が出るまで待ってみれば？」と指定校推薦申込書を受け取りませんでした。

そう悩んでいるうちに3週間がたち、私は奇跡的に合格することができました。本当に嬉しかったです。なぜ私がという気持ちもありましたが、きっと努力が伝わったのだと思います。そしてこの受験を乗り越えられたのは支えてくれた先生方や励ましてくれた友達でした。とても感謝しています。

この受験で「最後まで諦めてはいけない」という事を学びました。努力すればその分試験官にちゃんと伝わります。これからくじけそうになったりすることもあると思いますが頑張ってください。

## 二松学舎大文学部国文学科

私は、指定校推薦で二松学舎大学文学部国文学科に合格しました。志望校決定に至るまでの経緯や試験に向けての準備についてお話したいと思います。

私が二松学舎大学を選んだ理由は大きく分けて二つあります。まず第一に、国文学の勉強をしたかったからです。二松の文学部は、今から130年前の明治10年に設立された非常に歴史ある学部です。そして、上代、中古から近現代に至るまで時代別の文学講座が充実しています。以上が、二松学舎大学を選んだ第一の理由です。

私は将来、高校の国語科教諭を志しています。公立高校の教員になるには、各都道府県が実施している教員採用試験に合格しなければなりません。二松学舎大学には、この試験対策の「教員採用試験合格講座」が設けられています。実際、二松では、沢山の卒業生が教員として活躍されています。これが、二松学舎大学を選んだ第二の理由です。

志望校を決めてからは、試験に向けた準備が始まりました。指定校推薦なので、試験内容は面接試験のみでした。但し、事前に800字程度の志願理由書の提出がありました。志願した理由を書けばよいだけなので一見、簡単そうです。私も書き始めはそう思っていました。しかし、いざ書き始めてみると、序盤にこそあれこれ書けるものの中盤を少し過ぎた頃になると段々と書くことがなくなりました。国語科の窪田先生に添削指導を依頼したところ、次の様な事を言われました。「大学に関する材料が少なすぎるんだよ。」

私のこの体験から何が言いたいのかというと、志望校の決定は早い方が良い、という事。

どんなに遅くとも二年生の春休み中に決めておくのが良いと思います。その際、ただ単に大学のパンフレットを見比べて決めるのではなく、オープンキャンパスなどを利用して実際に自分の足で大学に出向いて欲しいと思います。

志望理由書については、11月2日に書き上がりました。しかし、まだ面接練習が残っています。試験は11月12日なのであと10日しかありません。この間、面接練習は一切行っていませんでした。しかし、本常先生、木村先生、窪田先生に協力して頂き、何とか10日間で面接練習を終える事が出来ました。

これから受験される皆さんに伝えたい事は大きく分けて次の3つです。1つ目は、先述しましたが学校は複数比較して、出来るだけ早めに志望校を決定する事。2つ目は、志望理由書や小論文は沢山の先生に添削指導してもらのではなく、1人の先生に徹底的に添削してもらう事です。出来れば、国語科の先生が良いです。3つ目、進路実現というものは決して1人の力で達成されるものではありません。周りの人間の協力があって、初めて達成されます。それがわからない人はどうか推薦で受験しないで下さい。

今回、沢山の先生にご協力頂きましたが、得に窪田先生には大変お世話になりました。ありがとうございました。